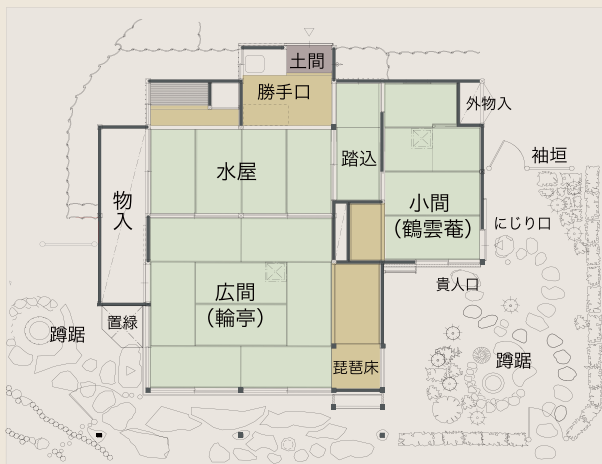


## 茶室



都筑民家園に移築された旧長沢家住宅には、江戸時代の職人の手のあとが残り、長きにわたり多くの人が行き来した空気の流れています。その隣に茶室を建てるにあたり、主屋の民家と違和感がなく、この公園にふさわしい建物になるよう施工しました。小間の壁止め登り梁は、主屋同様「ちょうな」という古い手道具ではつり、仕上げています。柱・梁などあらゆる木材は、古色仕上げにすることにより、侘びて落ち着いた雰囲気としました。国内各地から取り寄せた、銘木一本一本が見どころです。平成の職人の手のあとも、これから続く歴史の中で、たくさんの人にいつくしんでいただきたいと望みます。

大工棟梁 松本高広



### 建築概要

- ・延べ面積: 45.06㎡
- ・主な仕上材: 床柱-赤松、床框-栗、落掛-杉、小間中柱-こぶし

## 輪亭 (りんてい)

### 八畳広間

本格的な茶事に使える八畳の広間。襖を外すと四畳の水屋を含め十二畳でも使用可能です。「輪亭」の名称は公募により決定。民家園が大切に作る人の繋がり、人の和を意味しています。

輪亭内部



輪亭からふるさと池を望む



水屋

## 鶴雲菴 (かくうんあん)

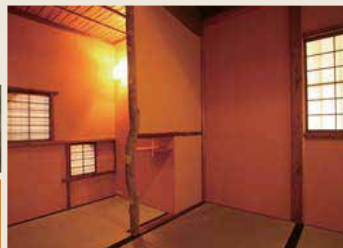
### 三畳台目

公共の茶室では珍しい、三畳台目の小間。身近で使える本格的な茶室というテーマを具現化した空間になっています。

鶴雲菴内部



鶴雲菴 床



鶴雲菴 にじり口

## 露地 (ろじ)

主屋の景観にそった茶室には周辺に育った木々と同じような樹木を選び同化できるようにこころがけました。

飛石には神奈川県内で産出する根府川石と丹沢山系の川の石を使い、地域性を強調しています。また、配石は主屋の侘びたたたずまいに従い、茶味のある筑波石を畳石から小間の飛石とし、随所に配しています。広間の腰掛から内露地の蹲踞前石に至るまで根府川石を据え、飛石の特徴の違いにより小間、広間の茶室に至るまでの心くばりに、変化を生じるように石材を選びました。

麻布植祐 上野周三



## ふるさと池

茶室広間の前に広がるふるさと池は、民家園開園当初からあったものを茶室の建設に併せて再整備させていただきました。コンクリートの池底に荒木田土を打ち、民家園や茶室の風景にあった抽水植物を植栽しています。整備に当たっては、近隣小学校をはじめ地域の方々の協力を仰ぎ、まち普請として実施。山里の趣を模すとともに、子ども達がふるさとの光景として心に残してもらえる事を期待しています。

